ズーム L6

各部の説明

本体を、キーや端子、ノブが沢山ある面を上に向け、高さのある丸いノブが横一列に並んでいる方を手前にして置いてください。

次の順番でL6の各部を説明します。本体正面、左ソク面、右ソク面、本体底面の順番です。

# 本体正面

左から順に説明します。

## 一番左上に丸い電源キーがあります。長押しで電源をON/OFFします。

## 電源キーの右下にはコンボジャックが斜め方向に二つ並んでいます。左下がチャンネル1、右上がチャンネル２の入力です。それぞれのコンボジャックの左上、右下にある突起はネジです。

## それぞれのコンボジャックの下には２つの小さな丸い突起があります。これはシグナルインジケーターです。チャンネル１、２に入力があると緑色に点灯し、クリップすると赤色に点灯します。

## 2つのシグナルインジケーターの中央の下に四角い48Voltキーがあります。押して点灯させるとチャンネル１、チャンネル２に+48Voltのファンタム電源を供給します。

## その下には左右に二つ、四角いミュートキーがあります。左側がチャンネル1、右側がチャンネル2のミュートキーです。押して点灯させると押したチャンネルの入力をミュートします。

## その下に左右に二つ、丸いチャンネルエンコーダーノブがあります。左側がチャンネル1、右側がチャンネル2のノブです。ノブは、チャンネルのゲインや各出力への送り量、音質、定位の調節に使用します。ノブの周囲のLEDインジケーターの光り方で調節値を示しています。

## チャンネル2のコンボジャックの右側には８つの1/4インチ TSジャックが、縦に2列、横に4列で並んでいます。縦2つのTSジャックが同じチャンネルの入力端子となっており、左からチャンネル3、チャンネル４、チャンネル５、チャンネル６の入力端子です。それぞれステレオチャンネルで、ウエがL、シタがRの入力となっています。

## 順に説明します。

## チャンネル3、チャンネル4について説明します。

## それぞれのチャンネルの入力端子の下には小さな丸い突起があります。シグナルインジケーターです。

## その下には四角い、MONOキーがあります。押して点灯させることで、チャンネル３、チャンネル４をステレオ入力ではなく、モノラル二系統の入力として扱います。

## その下にはミュートキーがあります。

## その下にはチャンネルエンコーダーがあります。

## 次にチャンネル５、チャンネル６について説明します。

## 2つのチャンネルには、入力端子がそれぞれ縦に二つ並んでおり、ステレオ入力が可能ですが、モノラル入力をする際はウエ側の端子に接続してください。

## チャンネル５とチャンネル６の入力端子の下にはそれぞれ小さな丸い突起があります。シグナルインジケーターです。

## その下には四角いUSBキーがあります。左側がUSB１/ ２キーで、右側がUSB３/ ４キーです。L6をオーディオインターフェースとして使用するときに押して点灯させることで、チャンネル５、チャンネル６にはTSジャックからではなく、USBケーブルからの信号が入力されます。そのあいだ、チャンネル５、チャンネル６のTSジャックからの入力はミュートされます。

## 各USBキーの下にはミュートキーがあります。

## その下にはチャンネルエンコーダーがあります。

## チャンネル6の右側には、四角いキーが縦に9つ並んでいます。どのキーを押すかで、各チャンネルの一番下に並ぶ、チャンネルエンコーダーで調節できるパラメーターが変わります。キーの機能を上から順に説明します。

## 一番ウエのキーはHIGHキーです、高域の音量を調節します。その下のキーはフリークエンシーキーです、音量を調節する中域の中心周波数を調節します。その下のキーはMIDキーです、中域の音量を調節します。その下のキーはLOWキーです、低域の音量を調節します。

## LOWキーの下には、エーユーエックス1キーがあります。エーユーエックス1出力端子への送り量を調節します。その下のキーはエーユーエックス2キーです。エーユーエックス2の出力端子への送り量を調節します。その下のキーはE F Xキーです。内蔵エフェクトへの送り量を調節します。

## E F Xキーの下にはPANキーがあります、左右の定位感を調節します。その下のキーはLEVELキーです、音量を調節します。

## 次に、縦に並ぶ９つのボタンの右側の列を上から説明します。

* 上からMIDI IN端子、MIDI OUT端子、データ通信用USB端子があります。MIDI IN、OUT端子は1/8インチTRSミニジャックです。外部機器とMIDI信号をやり取りできます。データ通信用USB端子はType-C端子です。スマートフォン/タブレットやパソコンと接続し、L6とファイルのやり取りをしたり、オーディオインターフェースとして使ったりできます。
* データ通信用USB端子の下には四角いSOUND PADキーが縦に４つ並んでいます。これを押すことで、SOUND PADに割り当てた音声を再生することができます。
* その下にはSOUND PADノブがあります。SOUND PADの音量を調節できます。最大と最小で回転が止まります。
* MIDI IN端子、MIDI OUT端子の右側に1/4インチTRSジャックが縦に２つ並んでいます。ウエがA U X１SENDの出力端子、シタがA U X２SENDの出力端子です。
* その下にはTAPキーがあります。このキーではTAPテンポを設定できます。設定値は内蔵エフェクトのDelay、Echoと、MIDI OUTのテンポに反映されます。TAPキーは設定されたテンポで緑色に点滅します。
* その下には、左寄りに、小さな丸い突起が５つあります。これらは、内蔵エフェクトインジケーターです。選択中の内蔵エフェクトに対応するインジケーターが点灯します。上から順に、Hall Reverb、Room Reverb、Spring Reverb、Delay、Echoのインジケーターです。
* その下にはSELキーがあります。SELキーでどの内蔵エフェクトを使用するかを決められます。キーを押すたびに内蔵エフェクトが順番に切り替わります。

## SELキーの下には、エフェクトリターンノブがあります。エフェクトからの信号の戻り量を調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## A U X SEND出力端子の右側には縦に２つの1/4インチTRSジャックが並んでいます。ウエがMASTER L、シタがMASTER Rの出力端子です。

## その下には小さな突起が縦にいくつか並んでいます。マスターレベルメーターです。MASTER OUT L / R端子から出力された信号の大きさをマイナス48dBから0dBの範囲で示します。

## レベルメーターの下にはCOMPキーがあります。押して点灯させるとコンプレッサー機能を使用でき、MASTER OUTの音圧を上げつつ、音割れを防ぐことが出きます。

## COMPキーの下にはMASTER ノブがあります。MASTER L / R端子から出力される信号の大きさをマイナス-∞から+20dBの範囲で調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## MASTER L / R出力端子の右側には1/4インチステレオ標準ジャックがあります。モニターアウト端子です。モニターアウトの音量はこの端子のまっすぐ下にある、モニターノブで調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## モニターアウト端子のすぐ下には小さな丸い突起があります。電源インジケーターです。電源がONのときに点灯します。電池動作時は電池の残量を示します。電池残量が少なくなると赤く点灯します。残量がほぼなくなると赤く点滅を始め、しばらくすると電源が切れます。

## その下には５つの四角いキーがあります。上から順に機能を説明します。

## ウエ側の３つのキーはシーン選択キーです。上からシーンA、B、Cのシーン選択キーです。各シーン選択キーを3秒間長押しして、L6の調節値をそのシーンに保存できます。また、短く押すと、そのシーンに保存された状態を呼び出します。

## その下にはRECキーがあります。録音を開始または停止します。

## その下にはPLAY/STOPキーがあります。直前に録音したファイルを再生、停止します。

# 左ソク面

本体奥側にある四角い穴はセキュリティー用のケンジントンロックの穴です。チェーンやワイヤーなど、盗難防止用具を取り付ける際に使用します。

# 右ソク面

奥から順に次のように位置します。

## 一番奥に四角いラベルが貼ってあります。このラベルにはSDカードをフォーマットする方法が記載されています。SDカードをフォーマットする際はRECキーを押しながらL6を起動し、起動完了後にPLAY/STOPキーを押して実行してください。

## その手前に電源用USB Type-Cの端子があります。DC5VoltのUSB ACアダプター（ZOOM AD-17）、または5Voltモバイルバッテリーを接続できます。手前側と奥側の小さな丸はネジどめの穴です。

## その手前に、microSDカードスロットの蓋があります。本体正面側に爪をかける突起があり、正面側から背面方向に開きます。microSDカードを入れるときは、microSDカードの端子面をうら面にして、切り欠きが上になる向きで、カチッというまで押し込んでください。取り出す時はもう一度押し込んでください。

# 本体底面

本体を裏返してください。本体底面について、奥側から説明します。

## 一番奥の左端、右端に一つずつゴム足があります。左のゴム足の左上、右のゴム足の右上にある丸い穴はネジ穴です。

## 2つのゴム足の下には、四角いへこみがあります。ユーロラックアダプター（ERL-シックス）取り付け用の穴です。

## 2つの四角いへこみの間、中央寄りにある丸い穴はねじ穴です。

* ネジ穴からまっすぐ手前側に、電池カバーがあります。

## 電池カバーの下部にある2つの爪を上に押しながら持ち上げることで開けます。この製品は単3電池を4本使用します。電池は２本ずつ二列にして、入るようになっています。電池を入れるときは、まず本体の電池収納部にあるリボンを上方向に引っ張ってください。リボンの上に電池が乗るように注意して、電池のマイナス側をバネのある側に合わせ、電池同士はプラスとマイナスが接するようにして入れて下さい。このとき、リボンを電池で挟まないように注意してください。電池カバーを付けるときは、リボンが電池収納部の内側に入るよう折りたたんで、カバーのウエ側にある４つの小さな爪を、本体の電池収納部のウエ側の穴に合わせて嵌めこみ、下側をカチッというまで押してください。

## 電池カバーの左側には四角く大きなラベルが、その右下には細長い小さなラベルがあります。

* 大きなラベルの左側に、四角いラベルが貼ってあります。このラベルの左寄りにはQRコードが記載されており、スマートフォンなどで読み取ることで、L6の情報を掲載したwebサイトにアクセスできます。

## このラベルの下と電池カバーの右下にゴム足があります。

* 左のゴム足の左下に丸いネジ穴があり、そこから右に行くと四角い穴が2つあります。その右に丸いネジ穴があり、さらに右に行くと四角い穴が2つあり、右端に丸いネジ穴があります。
* 四角い穴はユーロラックアダプター（ERL-シックス）取り付け用の穴です。
* 取り付け用の穴は、この2つの四角いへこみと、手前側の4つの横に細長い穴と合わせて、計6つです。

以上でL6の各部の説明は終了です。

© 2025 ZOOM CORPORATION Z2I-5812-01